

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立松原中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0047

福岡県大牟田市大正町5丁目4番地16

E-mail matubara-js@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/matsubara-jh/

幼児児童生徒数 男子 110名 女子 99名 合計 209名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「キャリア教育」を活動テーマとして、ESDを自己の「生き方」を考える場と捉え、ESDの実践を通して問題を解決する力・主体的、創造的な学び方、考え方、態度・自己の生き方考える力、実践する力の育成を目標とした。

具体的には、福祉学習、地域探究学習、国際理解学習、職場体験学習を柱に、

- ①認知症や高齢者に係わる学習、②地域の課題を解決する提案をおこなう学習、③他地域への理解を深める学習、④職業体験に係わる学習を行った。

① 認知症や高齢者に係わる学習（福祉学習）

大牟田市の地域包括支援センターの方にGTとして講話をしていただき、認知症の学習および、老人介護のあり方・接し方・注意点を学んだ。

高齢者介護福祉施設との事前打ち合わせを行い、2日間の介護福祉体験を行った。地域包括センターの方と認知症ライフサポート研究会の方に絵本教室を実施していただき、認知症の方の気持ちを思いやることを学んだ。さらに学習を深めるため、大牟田市の高齢者の現状を学習し、高齢者疑似体験やアイマスク体験、車いす体験を行った。

校内を点検し、弱者の視点に立った松原中学校改修計画を作成した。

② 地域の課題を解決する提案をおこなう学習（地域探求学習）

大牟田・荒尾の世界遺産や史跡を見学したり、環境・エネルギー施設や伝統地域文化や祭りを継承する人や産業・農業・漁業に関わる人を訪問したりして、地域の文化・歴史や大牟田の現状を知り、大牟田が抱える課題を見つけ、その課題を改善する方法を考えたり、行動したりし、大牟田の未来についても興味関心を持って考えることができるようにする。「ふるさと」のことを思う生徒を育成する。

③ 他地域への理解を深める学習（国際理解学習）

世界の問題を解決するために活躍している人（した人）の講演を聴き、世界で起こっている問題を知り、解決方法を考え、自分たちにできる国際貢献活動を行うことができるようにする。JICA 国際協力推進員の森川大毅氏を講師に招き、「幸せの形」という視点から国際理解を深める講演会を実施しました。イギリスのシンクタンクが「世界一幸福度指数の高い国」バヌアツについての話を聞きました。

④ 職業体験に係わる学習（職場体験学習）

少人数でさまざまな職種・職業について実際に体験した。「働く」ことのたいへんさや喜びを実際に経験することができた。体験先で人と接することの大切さを学習することができた。職場体験を中心に働く意味と将来の計画を考える学習をもとに、キャリア教育の基礎的・汎用的な能力を育成した。進路選択の支援となる活動へとつなげていった。

① の写真（福祉体験活動）



② の写真（地域探求活動）



③ の写真（国際理解学習）



④ の写真（職場体験活動）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (高齢者福祉・地域探求)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>○ユネスコスクール支援センターについて (大牟田市教育委員会) ○まなばんかん登録者名簿 (生涯学習支援センター) ○ユネスコスクールだより集 H24 ~ H28 (ユネスコ担当者会) ○世界遺産学習「中学校版教材集」(大牟田市教育委員会) ○九州海外協力協会 (JICA 国際協力出前講座) ○今日よりいいアースの学び (日本国際委員会) ○未来をつくる教育 ESD 持続可能な多文化社会をめざして (五島敦子・関口智子 明石書店)</p>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動を総合的な学習の時間に位置づけている。全体計画を作成して目標、身につけさせたい態度や能力、各学年のテーマ（目標・学習内容）などの全体計画を作成している。指導内容においては、3学年の活動計画を教育課程に記載し、3年間を見通した指導に努めている。1年生（福祉、進路）2年生（地域探求学習、国際理解学習）3年生（職場体験学習、保育体験学習）実施している。諸活動の指導方法の工夫に関しては、それぞれの活動において実施要領を作成し、生徒自ら課題を見つけること、課題を解決すること、自己の生き方につなげることを重視した活動を指導している。また、効率的な活動の実施や生徒の安全確保などに努め、各教科、道徳、特別活動、地域との連携を重視している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌組織の教務主幹を中心とする教務部の一つに位置づけている。他の分掌が各学年1名に対して各学年2名を配置している。ユネスコスクールとしての活動が各学年単位の活動が主なので、学年で発達段階を考慮し計画、実施、評価、改善のサイクルを大切にして、他の学年へとも連携しあいながら教育活動を実践している。市などの担当者会、研修会などに参加しながら他の地域の取組について研修している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎学期ごとに全体の教育課程（教育課程、授業、行事、特別活動、生活など）を47の項目で職員による評価（7月、12月）に実施している。具体的には4項目（計画の適切さ、資料作成・活用、体験活動の計画性）に関連性がある。7月より12月は0から0.2ポイントの増加が見られる。行事・授業公開を年8回実施して保護者からのご意見をもらっている。また、学校関係者評価委員会を年3回開催してご意見を頂いている。成果は、教育活動が計画的、継続的に実施され活動に生徒は意欲的に取り組んでいる。課題として、生徒の発達段階を考慮して、生徒の協働、課題を発見、課題を解決していく活動を向上させなければならない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

市役所の担当の方をお呼びして自分達が一生涯生活したいと思う大牟田市になるための方法を考え提案する。社会福祉協議会の方をお呼びして高齢者が住みやすい町にするための方策を考え提案する。このような活動を通して、生徒自身が主体的に学び、さらに自分たちが住む町の改善策を考え、提案することで「持続可能な社会」を創り出す視点を身につけさせることができると思う。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

○福祉施設や認知症ライフサポート研究会、地域包括支援センターなどの福祉体験学習での支援団体。
○信号電材や日立ハイテク九州、メガソーラー大牟田発電所などの地域探究活動での訪問先事業所。
○海上保安庁や平井外科産婦人科、延命動物園などの職場体験での体験先事業所。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

○大牟田市内の小中学校での交流会には、生徒会役員、各学年の代表が参加して交流している。
○生徒会役員による2校の小学校との交流を年2回行っている。
○地域とは、生徒会役員を中心に地域のボランティア清掃を年1回実施している。
○大牟田市以外の地域との交流をユネスコスクール支援センターの支援を受けながら目指していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

1年生で「高齢者の住みやすい町づくり」という福祉体験学習を実施して生徒は高齢者の行動等を振り返ることができた。2年生では「自分達が一生涯生活したいと思う大牟田市になるための方法」という地域探究学習を実施して他の地域との比較しながら大牟田の将来について考えることができた。3年生では、実際に「働くこと」を経験することにより、自分の近未来（学校卒業後）を想定した活動をおこなった。様々な依頼を生徒、職員が行うことにより今まで気づかなかった地域のこと、職業のこと、保護者のことなどいろいろと知ることができた。職員室における指導法についての意見交換が活発に行われるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

目標 持続発展学習（ESD）としてこれからの社会を見据えた活動に取組

1年生 福祉学習、進路学習

- ・ 福祉に関する個人の責任と役割を考え、自分たちにできるボランティア活動に積極的に関わる態度の育成。
- ・ 体験活動の中で、自己の特性や資質を見つける。
- ・ 協働活動を通じた絆づくり

2年生 地域探求学習、国際理解教育

- ・ 地域に関する個人の責任と役割を考え、地域、文化を理解し、積極的に後継しようとする態度の育成。
- ・ 体験活動の中で、将来の進路や自分の生き方を考える。
- ・ 協働活動を通じた絆づくり

3年生 職場体験、進路学習

- ・ 体験活動の中で、「生きること」をあらためて考え、将来の生きがいのある生活を実現するために、自分で進路を選択決定していこうとする態度の育成。
- ・ 協働活動を通じた絆づくり

○ 各教科「ESDカレンダー」道徳、特別活動、地域との連携（ひと・こと・もの）との関連性を大切にする。

○ 講師招聘による国際理解教育の推進

○ 学校別SDGsの推進

残食0運動（2）高齢者介護（3）学習発表展示（4）合同クリーンアップ（7）国際交流講演会（10）地域文化探求活動（11）人権、平和学習（16）他校・地域・関係機関との連携（17）